

製品名: NTPase ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14931**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	21kDa

抗原情報

遺伝子名	NTPCR
別名	NTPCR; C1orf57; Cancer-related nucleoside-triphosphatase; NTPase; Nucleoside triphosphate phosphohydrolase
遺伝子 ID	84284.0
SwissProt ID	Q9BSD7
免疫原	抗血清はヒト C1orf57 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

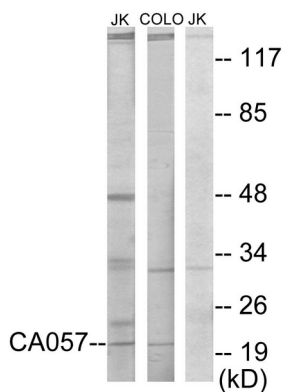
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、in vitro で緩徐に作用する非特異的ヌクレオシドトリホスファターゼである。この遺

伝子は多くの腫瘍組織で過剰発現しており、細胞にとって必須ではないものの、過剰発現は細胞毒性を示す。しかし、この細胞毒性はトリホスファターゼ活性とは関連がない。[RefSeq 提供、2016年7月],触媒活性: NTP + H(2)O = NDP + リン酸。機能: ATP、GTP、CTP、TTP、UTP に対するヌクレオチドホスファターゼ活性を有する。ヌクレオシド二リン酸を低効率で加水分解する。類似性: THEP1 NTPase ファミリーに属する。サブユニット: モノマー。

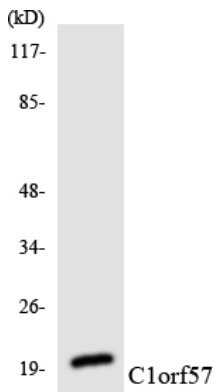
研究分野

細胞生物学

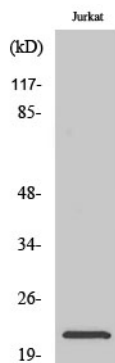
画像データ



C1orf57 抗体を用いた Jurkat 細胞および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



C1orf57 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



NTPase ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析